



# EBAタイムス

10月 第22号

広島市立江波小学校 学校だより **22**

URL <http://www.eba-e.edu.city.hiroshima.jp/>

## 学校教育目標

自ら学び 自ら考え 豊かな心をもって  
個性豊かに生活を創造する子どもの育成



## 「基礎・基本」定着状況調査結果

いつしか夜寒の身にしみる季節となりました。保護者の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。平素から本校教育にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、6月に実施された平成21年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果についてお知らせします。学校ではこの結果を踏まえ、一層の基礎学力の向上を目指して教育活動の改善を図っているところです。

調査結果の概要をお知らせし、学校と家庭とが基礎学力の現状を共有することによって、基礎学力充実につながる環境づくりに共に努めていきたいと考えています。ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

【実施日】 6月9日(火) 【対象】 全県の5年生 26,027名

- 【調査内容】
- (1) 国語と算数の4年生までの学習内容の定着状況
  - (2) 生活習慣・生活意識などに関するもの
  - (3) 学習習慣・学習意識などに関するもの

### 1 国語と算数の調査結果(通過率)

教科	国語			算数		
	本校	広島県	広島市	本校	広島県	広島市
通過率(%)	73.1	75.0	74.0	81.2	79.8	78.4

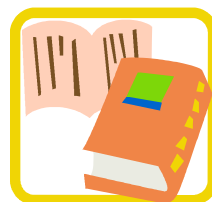
算数は県や市より少し高い数値、国語は県や市より少し低い数値ですが、ほぼ県や市と同等の通過率という結果となりました。

このことから、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容は、おおむね定着していると考えています。調査結果を踏まえ、一層の基礎学力の向上をめざして、次の方針のもとに、日々の教育活動をすすめていきたいと考えています。

- ◎ 基礎・基本の確実な定着をめざして、指導法の工夫改善を行い、一人一人に応じたきめ細かな指導を継続していく。
- ◎ 一人一人の考えが認められ、大切にされる授業づくりをすすめる。
- ◎ より深く確かな思考力、表現力を育てる学び合いのある授業づくりをすすめる。

## ② 国語の領域別通過率と取り組みの方向性

	本 校	広島県	広島市
聞くこと	75.9	79.0	78.5
書くこと	73.5	75.4	73.6
読むこと	65.1	67.6	67.9
言語事項	77.4	78.3	76.6



### 【分析】

「聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」とも県や市と同等の通過率で、おおむね定着していると考えています。ただし、いずれの領域も県の通過率をやや下回っているのので、より一層の指導の充実が必要だと考えています。

設問ごとにみますと、話の要点を確実に聞き取ったり、分かりやすいように構成を考えて書いたりする力がやや不十分でした。また、登場人物の心情や段落相互の関係を考えながら読む力に課題があることも明らかになりました。漢字の読み書きや主語と述語の関係をとらえるなどの言語事項についてもより確実な定着を図っていくことの必要性を感じています。

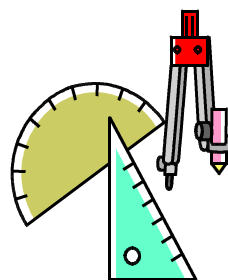
### 【取り組みの方向性】

調査結果を踏まえ、国語では、次のような指導に取り組んでいきます。

- (1) 授業や日記などにおいて、自分の考えや思いを表現する機会を充実させていく。
- (2) 登場人物の心情や段落相互の関係などについて、一人一人の考えを集団で吟味検討することを通して、より確かに深く読み取らせるような授業づくりに努めていく。
- (3) 帯タイムや家庭学習などにおいて、漢字などを繰り返して練習したり復習したりする学習を積み重ねていく。

## ③ 算数の領域別通過率と取り組みの方向性

	本 校	広島県	広島市
数と計算	84.3	84.0	82.5
量と測定	74.1	72.8	70.9
図 形	79.3	79.7	77.2
数量関係	84.8	81.2	81.0



### 【分析】

4領域とも県や市と同等またはやや上回る通過率で、十分定着していると考えています。

設問ごとにみますと、計算したり、図形やグラフをかいたりする力は確実に定着しています。一方、「数と計算」の分数の意味の問題や、「量と測定」のかさの単位の問題、「図形」の三角形の定義を使って辺の長さを考える問題などに課題があることも明らかになりました。

### 【取り組みの方向性】

調査結果を踏まえ、算数では、次のような指導に取り組んでいきたいと考えています。

- (1) 問題解決型の学習過程を多く取り入れた分かりやすい授業づくりに努めていく。
- (2) 自分の考えをペアやグループで交流し合う学習活動を多く取り入れていくようにする。
- (3) 帯タイムや家庭学習などにおいて、計算などを繰り返して練習したり復習したりする学習を積み重ねていく。

#### 4 生活・学習の意識調査の結果

生活・学習の意識調査では、児童に対して数多くの質問を実施しました。紙面の都合もあり、そのうちの一部の調査結果並びに分析を紹介します。

##### <生活などに関する調査（数字は％）>

生活習慣		本校	広島県	広島市
毎朝朝食を食べています。	あてはまる	94.9	97.1	97.1
	あてはまらない	5.1	2.9	2.9
読んだ本の内容について友達や家族と話をしています。	あてはまる	34.3	55.6	55.4
	あてはまらない	65.7	44.4	44.6

#### 【分析】

- 毎朝朝食を食べる児童の割合は、県や市と比較して低くなっています。朝食をしっかりと食べることは、生き生きとした学校生活を送るために大変重要だと考えています。学校からも「保健だより」や「給食だより」、食育の学習などを通して、呼びかけていきます。ご家庭でもご協力をお願いします。
- 読んだ本について友達や家族と感動を伝え合い、受け止め合うことができると思えます。学校でも「読書タイム」の時間を活用して、読書に取り組んでいます。今後は、感想を交流し合う場も設けていきたいと考えています。

生活習慣・学習習慣		本校	広島県	広島市
ふだん（月～金）1日何時間くらいテレビを見たりゲームをしたりしていますか。	1時間未満	17.2	15.2	15.8
	1時間～3時間	45.5	51.2	49.5
	3時間以上	37.3	33.6	34.7
ふだん（月～金）家では1日何時間くらい勉強をしていますか。（塾、家庭教師は除く）	1時間未満	54.5	56.5	62.5
	1時間～3時間	39.4	40.0	34.0
	3時間以上	6.1	3.5	3.5
1週間（土、日を含む）家庭で何時間くらい読書をしていますか。（漫画、雑誌を除く）	1時間未満	48.4	57.0	59.1
	1時間～3時間	31.4	31.5	29.8
	3時間以上	20.2	11.5	11.1

#### 【分析】

- テレビを見たりゲームをしたりする時間が1日3時間以上の児童が40%近くという実態が明らかになりました。この数値は、県や市と比較しても高くなっており、改善していく必要があると考えています。
- 家庭での1日の勉強時間をみますと、県や市と比較しても適切な割合を示しており、おおむね家庭での学習習慣は付いていると考えられます。
- 1週間の家庭での読書の時間は、1時間～3時間の児童が約31%、3時間以上の児童が約20%となっています。この数値は、県や市と比較しても適切な割合を示しており、読書活動がある程度習慣化している児童が多いと言えます。しかし、1時間未満の児童も約48%となっていますので、よい読書習慣を学校全体に広げていく必要があると考えています。

学習への意識		本 校	広島県	広島市
学習を最後までやりとげてうれしかったことがあります。	あてはまる	83.8	89.0	89.7
	あてはまらない	16.2	11.0	10.3
「もっと力をつけたい」「分かるようになりたい」から勉強しています。	あてはまる	61.6	80.6	80.5
	あてはまらない	38.4	19.4	19.5
将来、仕事や生活のなかで役に立つと思うから勉強しています。	あてはまる	68.7	82.5	81.6
	あてはまらない	31.3	17.5	18.4

### 【分析】

- 「学習を最後までやりとげてうれしかったことがあります」に「あてはまる」と回答した児童は80%を超え、「もっと力をつけたい」「分かるようになりたい」という思いから学習に取り組んでいる児童も60%以上という結果になりました。このような子どもたちの意識に 대응することができるよう学習指導をさらに充実させていきたいと思えます。

自己効力感（自尊感情）		本 校	広島県	広島市
努力すれば自分もたいいのことはできると思う。	あてはまる	83.8	89.0	89.6
	あてはまらない	16.2	11.0	10.4
自分には、よいところがあります。	あてはまる	57.6	72.7	72.9
	あてはまらない	42.4	27.3	27.1
自分のよさは、周りの人から認められていると思う。	あてはまる	38.4	56.4	81.6
	あてはまらない	61.6	43.6	18.4
将来の夢や目標は、かなうと思います。	あてはまる	60.6	81.1	81.6
	あてはまらない	39.4	18.9	18.4

### 【分析】

- 「努力すれば自分もたいいのことはできると思う」に「あてはまる」と回答した児童は80%を超え、「自分には、よいところがあります」には、約60%児童が「あてはまる」と回答しています。このことから、多くの児童が自己効力感を持っていると言えます。しかし、県や市と比較すると低い傾向がみられます。
- 「自分のよさは、周りの人から認められていると思う」と「将来の夢や目標は、かなうと思う」に「あてはまる」と回答した児童の割合も、県や市と比較して低くなっています。自分に対する厳しい控えめな評価をしているのかもしれませんが、課題の1つであるととらえています。
- 児童が「自分はできる」「自分は認められている」「将来に向かって努力できる」という実感を持つことができるように、タイムリーで肯定的な評価を繰り返し行ったり、友達の良さに目を向け認め合う場を設けたりする指導を継続していきたいと考えています。

本校では、来年11月に開催される研究大会を見据えて、昨年度より、児童の自尊感情や思考力・表現力の育成をめざして、授業づくりや学級経営に取り組んでいます。今後も、取り組みを進めていきますので、引き続きご協力よろしくお願いします。